

令和6年度学校法人木村学園 大阪電子専門学校  
学校関係者評価委員会

【日 時】 令和7年3月27日（木） 11:00～12:00

【場 所】 大阪電子専門学校 3階コワーキングスペース

【出席者】

（学校関係者評価委員：五十音順・敬称略）

井本 直正 株式会社デナリパム（ZOOMでの参加）  
乾 克彦 大阪電業協会（ZOOMでの参加）  
大音 和豊 モノプラス株式会社  
河原 吉伸 大阪大学教授（ZOOMでの参加）  
三上 典秀 一般社団法人 i-RooBO Network Forum（ZOOMでの参加）  
吉田 剛 株式会社ベルチャイルド（ZOOMでの参加）  
渡邊 隆行 株式会社セイコー（ZOOMでの参加）

（弊学園教職員：教育課程編成委員会委員に含まれる）

木村 誠 学校長  
上田 良和 教育改善ユニット・電気設備科2年担任・電気設備科科长  
河村 雅章 学生指導ユニット主任・電気設備科1年担任  
浅野 勇介 電子工学科科長・電子工学科2年担任  
中本 智 情報エンジニア科科长・情報エンジニア科1年担任・就職担当

【議 事】

1. 学校長 ご挨拶
2. 自己評価表報告と審議
3. 学校関係者評価委員のご意見聴取
4. 次回開催について

【議 事 録】

1. 自己評価表報告と審議

『職業実践専門課程自己評価判断基準に基づく評価 2024 年度実施分』及び『大阪電子専門学校自己評価報告書 2024 年度』に基づき、事業計画の実施状況について報告。

2. 学校関係者評価委員のご意見聴取

・（委員）情報エンジニア科でも電気設備科と同様に実践教育を検討されているようですが、具体的に教えていただけますでしょうか。

⇒これまでデザイン系に関しては、実践的な教育ができていましたが、IT系に関しては座学中心になってしまう面がありました。そこで、弊校の卒業生が勤務している企業様を中心に、実際に学生を企業で作業させることでより、実践的な教育を行っていきたいと考えております。

・(委員)電気業界においては、仕事の需要は増えているものの、労働力がそれに追いついていない状況です。電気の労働人口を増やすためにも、実際に現場を見てもらい、興味をもってもらうことは重要であると考えておりますので、現場見学は良い取り組みだと思えます。あとは、建設業界は、人とコミュニケーションをとりながら作業を行っていきますので、授業のカリキュラムの中で、技術だけでなく、人間力向上につながるような内容を盛り込んでいくと良いと思えます。

・(委員)現場見学を安全衛生の観点から観察されていることはとても良いと感じました。IT 分野での安全というと、情報セキュリティになってくると思えますので、IT においてはそのような観点で作業を観察できるようになれば良いと思えます。

・(委員)現場見学はとても良いことですが、偏らないようになるべく幅広く現場を学生に見てもらうことが大事だと思います。

⇒現状、現場見学を一社にお願いしている状況ですが、今後現場の数を増やしていきたいと思えます。

・(委員)IT 業界においては、生成 AI が急激に台頭したように技術者に求められるニーズが変化しておりますので、専門学校においても、そういったニーズの変化に対応することを意識した教育内容にしていくのが良いと思えます。

・(委員)生成 AI の進化は顕著であり、すでに数百行のプログラムをバグなしで生成できるようになっております。そのため、今後は単純なコーディング能力だけでは、IT エンジニアとしての価値は上がり、課題発見能力や解決能力がより重要となってきます。そのため、専門学校においても、コミュニケーションをより高められるようなカリキュラム作りが、時代の要請にマッチした人材を育成する上で重要になってくると思えます。

### 3. 次回開催について

次回の教育課程編成委員会は、2026年3月頃に実施予定。

以 上